

令和5年度「地域発 元気づくり支援金」事業実施結果一覧(北アルプス地域)

No	事業名	団体名	事業内容	事業費 (円)	うち 支援金 (円)	講評
1	大町市内観光周遊促進事業	大町市	歴史的資源を活用したライトアップイベントを開催し、夜間の市内観光の拡充を図るとともに、令和5年夏に増便される「あずさ」乗客のために、信濃大町駅-木崎湖間の無料送迎バスを運行し、市内観光の周遊化を促進する。  ①ライトレンタル・設営等(2,346千円)、送迎バス運行(1,523千円)、警備代(268千円)	4,136,890	2,201,000	夜間のコンテンツとして、仁科神明宮、霊松寺で夜間ライトアップを行いました。また、霊松寺においては、日中にくろよん60周年事業と連携した日展工芸作家展を同時開催しました。 さらに木崎湖周辺で気軽にレイクアクティビティを楽しめるよう、信濃大町駅-木崎湖間で無料送迎バスを運行しました。 今後も年間を通じた誘客と回遊性向上につながることを期待します。
2	出張安曇野アートライン展	大町市	安曇野アートライン協議会加盟館の作品を一堂に集める「出張美術館」を開催することで、地域住民の芸術・文化への愛着を深めるとともに、観光客の増加を目指す。また、令和6年に開催予定の国際芸術祭との連携を高め、双方の誘客強化につなげる。  ①作品運搬(320千円)、広告宣伝費等(166千円) ②市内アートライン看板修繕3基(2,733千円)	3,218,371	995,000	北アルプス国際芸術祭のプレイベント等が開催される時期に「出張美術館」を市立大町山岳博物館で開催しました。 また、会場近くの劣化した安曇野アートライン看板の修繕を行いました。 地域住民や観光客が地域の一流作品に触れ、大町市周辺地域が芸術の街として印象が強まることを期待します。
3	大町市SDGs学習旅行誘致協議会事業	大町市SDGs学習旅行誘致協議会	近年の学習旅行は探求学習やSDGsに関連したプログラムに変遷してきており、大町市においても、水やエネルギー等の観光資源を活用した探求学習プログラムを作成した。プログラムのさらなる磨き上げを地域住民と共に取り組む。  ①ファシリテーター養成(160千円)、事業所視察(65千円)、モニターツアー(1,117千円)、市民見学会(660千円)	2,001,047	1,421,000	SDGs探究学習プログラムの活用による滞在型の修学旅行獲得を推進するため、現地ファシリテーターの養成、各種ガイド視察研修、旅行者向けモニターツアー、市民見学会を実施しました。 受入態勢整備を進めるとともに、継続的な周知活動を続けることで学習旅行受入増に繋がることを期待します。
4	鹿島川左岸堤防遊歩道整備事業	はなみフローズ	鹿島川左岸堤防は北アルプスの眺めが良く、観光客等が鹿島川の清流と北アルプスの山並みを撮影しており、観光資源として活用が期待できるため、昨年度に引き続き、遊歩道を整備する。  ②遊歩道整備、ベンチ等材料代等(2,123千円)	2,123,000	1,592,000	鹿島川左岸堤防に、堤防からの眺めを楽しめるよう遊歩道を整備しました。遊歩道には、地域住民や近隣の小中学生にも参加を呼びかけ、テーブル、椅子等を設置しました。 引き続き地域住民等と協力して残る区間の遊歩道を整備し、遊歩道をイベント等で広く活用することで、来訪者の増加や地域の活性化につながることを期待します。
5	シェアサイクルによる北アルプス広域観光推進事業	一般社団法人大町市観光協会	利用者の移動履歴を基に、需要のある目的地を巡るコース案内をデジタルで制作する。また、自転車観光を目的とした誘客を図るため、SNSを活用し動画配信を行う。  ①コース案内制作(781千円)、サイクルスタンド等制作(350千円)、動画配信等宣伝広告(1,226千円)	2,356,326	1,882,000	お勧めルートマップのリーフレットとスマホ連動型ハイブリッド地図を制作し、お勧めルートの案内ができるようにしました。 また、大町市でのサイクリングをPRする動画を作成、配信しました。 今後も、利用者のニーズを捉えながらレンタサイクル・シェアサイクルの利用環境を整備し、自転車を利用した観光の増進につながることを期待します。
6	地域六事産業化推進事業	一般社団法人地域づくり美麻	少子化や人口減少等により、美麻地域の担い手が減少している中、地域住民の主体的な行動により、6つの地域課題(若者交流人口獲得・定着、交通弱者支援等)の解決や集落機能の維持向上を目指す。  ①古民家リビルディング解体撤去工事(1,945千円)、移動支援アプリ開発等(390千円)	2,334,046	1,864,000	移住希望者向けに居住可能な住宅が不足しているため、活用予定のない空き家を利用可能な宅地とするために解体作業を行いました。 また、住民生活を支援する移動支援アプリを開発しました。 整備後の宅地の活用と移動支援アプリの運用による地域課題の解決に期待します。
7	ぼくらの市民活動プロジェクト	ぼくらの市民活動プロジェクト実行委員会	大町市において登録されている市民活動団体を対象に各種セミナーの開催やマルシェの場を提供することにより、団体のPRや団体同士のつながりを創出し、活動の広がりや事業の継続につなげる。  ①マルシェ開催(549千円)、セミナー開催(198千円)	746,180	535,000	団体同士の交流の機会を提供するためセミナーを開催しました。 また、団体の活動内容の発表や展示販売などを行うマルシェを開催しました。 団体同士のつながりや連携が生まれることにより、各団体が持続的に市民活動に取り組めることを期待します。
8	北アルプス地域の魅力度及びブランド力アップと、移住、定住、関係人口増による地域振興	一般社団法人青空市場長野県支部	北アルプス地域の知名度、ブランド力の向上を図るため、農業体験観光ツアーや移住定住交流会を開催することにより、関係人口を増やし、移住・定住につなげる。  ①交流会開催(734千円)、ツアー開催(670千円)、	1,403,609	1,088,000	東京都、神奈川県において北アルプス地域の観光等のPRや移住相談などの交流会を行い、北アルプス地域の魅力を発信しました。 また、北アルプス地域の市町村すべてを回る観光ツアーを実施しました。 引き続き、北アルプス地域への移住・定住や関係人口の増加につながる取組に期待します。
9	木崎湖創生事業	木崎湖地域創生協議会	かつて県内外から湖水浴に訪れる観光客で賑わった木崎湖の観光地としての魅力をもう一度高めるため、湖畔整備を実施する。併せて、湖畔においてテントサウナイベントを実施する。  ①テントサウナイベント(1,460千円)	1,459,275	723,000	木崎湖北側の海ノ口湖畔で、サウナ、飲食、水遊びのイベントを開催しました。 木崎湖周辺の魅力発信を通じて、観光地としての知名度が高まることを期待します。

No	事業名	団体名	事業内容	事業費 (円)	うち 支援金 (円)	講評
10	大系線利用促進及び沿線地域活性化事業(大系線モバイルスタンプラリー)	大系線利用促進輸送強化期成同盟会	人口減少や長期化するコロナ禍等の影響により、乗車率が低迷している大系線を持続可能な路線とするため、主要駅や観光スポットを巡るデジタルスタンプラリーを実施し、利用促進及び活性化を図る。 ①システム利用料(1,462千円)、広報費(937千円)、景品代(187千円)、諸経費(62千円)	2,647,490	2,015,000	大系線主要駅を拠点として、沿線自治体の観光スポットやまち歩きなど、沿線地域を巡るデジタルスタンプラリーを開催しました。 大系線や沿線自治体の魅力を発信し、大系線の利用促進や沿線地域の活性化に繋がることを期待します。
11	「自らの芸術祭」に向けた市民参加と協働促進プロジェクト	北アルプス国際芸術祭実行委員会	著名人やアーティストなどをゲストに地域課題の解決等をテーマにしたセミナーを開催することにより、次回芸術祭に向けて、市民等と課題を共有しながら、地域の魅力の再発見につなげる。 ①出演者謝金、旅費(305千円)、広告印刷等(172千円)、玩具賃借料等(117千円)	593,175	456,000	芸術祭やアートを主軸として大町市の地域資源と、街の潜在的な魅力を再発見し地域の活力へとつなげることを目的としたセミナー(「木と芸術と遊びが地域を創る」など)を開催しました。 大町市の自然や地域資源などを横断的に学ぶ機会を通じて、地域住民が地域の魅力を再発見し、北アルプス国際芸術祭に向けて市のブランド力向上につながることを期待します。
12	大町市農産物等輸出促進事業	大町市農産物等輸出協議会	将来の地域の農業振興を見据え海外へ販路を広げるため、香港でのPRキャンペーン、台湾でのプロモーション、現地の事業者と生産者との意見交換会等を実施する。 ①香港PR(3,939千円)、台湾プロモーション(1,352千円)、先進地視察研修(90千円)、輸出事業者旅費(188千円)	5,568,507	1,965,000	香港でのトップセールスや台湾への販路開拓、海外事業者招へいにより農産物等の海外PRを実施するとともに、海外輸出への理解促進を図るための先進地視察研修を実施しました。 引き続き、安定した農業経営と地域の農業振興のため、海外における販路拡大の取組に期待します。
13	「水」を起点とした地域ブランド振興事業	信濃おおまちみずのわプロジェクト	大町市の魅力あふれる地域資源を統合的につなげたブランドイメージの発信を行うため、「水」に着目し、水の歴史のデジタルアーカイブ化、新たな特産品開発等に取り組み、市民への啓発普及、地域ブランド確立を目指す。 ①特産品開発(3,697千円)、デジタルアーカイブ化(352千円) コーヒーフェスティバル開催(1,018千円)	5,066,814	2,950,000	大町市の地域資源である「水」を起点とした地域ブランドの確立に向けて、水に焦点を当てたイベントや特産品の開発、デジタルアーカイブ化の講座を開催しました。 水を起点とした魅力が市民へ啓発普及されることで、大町市のブランドイメージの向上に繋がることに期待します。
14	栄養素に優れたガーデンハックルベリーを通して地域の活性化のための特産品づくり事業	花とハーブの里ガーデンハックルベリー生産者の会	アントシアニンが多く含まれ、機能性の高い「ガーデンハックルベリー」を新たな特産品として確立するために、生産拡大、商品開発、販路拡大を行い、生産者所得の確保、さらには池田町の地域振興につなげる。 ①先進地視察バス借上(63千円)、栽培技術研修会(24千円)、加工品試作(429千円) ②冷凍庫の購入(270千円)	785,843	614,000	ガーデンハックルベリーを活用した加工製品の開発のための研修会と先進地視察を行いました。 池田町の新たな特産品となることで、生産者の収益向上や地域の魅力向上に繋がることを期待します。
15	池田町の花とハーブの里づくり実践事業	グラウカ	池田町の宣言している「花とハーブのまち」のブランド力を再構築するため、花とハーブの栽培講習会やマルシェを実施するとともに、生産性向上のための施設整備を行い、地域の景観向上、元気づくりに取り組む。 ①作業台等備品(744千円)、講習会、視察(155千円) ②ポータブル電源(150千円)	1,048,548	727,000	有機培養土で栽培したハーブの苗を活用した各種イベントを開催し、ハーブの育て方や効能等の啓蒙活動、景観に配慮した植栽を行いました。 ハーブの魅力を町の方々が再認識することで、池田町と町民の方々の活力となることを期待します。
16	健康的な食と憩いを提供し世代間交流ができる安全で安心して集える居場所づくり事業	実家の茶の間	新小学1年生等を対象に夏休み期間の学習支援や食事づくりイベントを実施するとともに、子どもカフェの感染症対策や衛生環境向上のため、手洗い設備の自動水洗化工事を実施する。 ①夏休みイベント(38千円) ②手洗い自動水洗化工事(517千円)	554,244	369,000	夏休みを過ごす子どもたちの学習支援と安全な居場所を提供するため、開放する建物の衛生環境設備工事とイベントを開催しました。 幅広い年齢層の子どもたちが相互に交流し、様々な体験をすることで主体的な成長へと繋がることを期待します。
17	マーケットニーズに応える松川村産果樹・米・野菜生産とブランド化～新型コロナウイルス感染症拡大の影響や経営環境の変化を勝ち抜く生産者の育成と果樹を中心とした強固な産地作り～	一般社団法人あつるぼういず	県外で開催される物販イベントにおいて、生産者が自らリンゴを販売する中で、消費者のニーズを把握し、栽培に活かすとともに、水田等の畔の維持・管理体制を充実させることにより、農山村の景観保全に努める。 ①イベント出店、広告費(605千円) ②畔管理草刈機(550千円)、イベントテント(369千円)	1,523,485	1,172,000	魅力ある農山村の景観保全のための畦畔管理を行うとともに、消費者ニーズの把握のため、県内外のイベントにて松川村産のリンゴ等の農産物販売を実施しました。 消費者ニーズの把握と松川村産の農産物の認知度が向上することで、新規就農者の規模拡大に繋がることを期待します。
18	白馬村に存在する氷河の観光資源化に向けた事業	白馬村	2019年に確認された唐松沢雪渓を含めた氷河の観光活用に向けた検討やブランドイメージの確立、潜在氷河の可能性調査と地域資源としての教育的活用を行う。 ①杓子沢等氷河調査(2,860千円) 氷河展望登山ツアールート検討(847千円) 調査報告会(218千円)	3,924,982	2,640,000	氷河の観光活用に向けて、氷河ガイドツアールートの検討を行いました。 また、氷河である可能性が高い不帰沢及び杓子沢について調査を実施するとともに調査報告会を開催しました。 氷河が地域に広く認知され、新たな観光コンテンツとして誘客につながることを期待します。

No	事業名	団体名	事業内容	事業費 (円)	うち 支援金 (円)	講評
19	震災アーカイブを活用した自立的な学びと語り継ぎの仕組みづくり事業	白馬村	次なる災害に備え、住民の防災意識の向上と、震災の記憶と記録を後世に受け継ぐための事業を実施する。 ①コンテンツ作成委託(610千円)、 動画制作(484千円)、展示物制作等(471千円) ②震災アーカイブ看板設置(121千円)	1,685,200	1,284,000	これまで整備してきた神城断層地震震災アーカイブを活用し、地元小学校において防災教育を行いました。 また、アーカイブサポーターズ養成講座や視察ツアー受入を行うとともに、地域住民の防災意識向上のため公民館講座を開催しました。 今後も取組を継続することで、震災の記憶・記録が継承され、地域住民の防災意識向上につながることを期待します。
20	地域一体となった観光マーケティング活動及び国際山岳リゾートとしての観光誘客インフラの整備	一般社団法人 HAKUBAVALLEY TOURISM	白馬バレーにおけるインバウンドのグリーンシーズンの誘客を推進することを主な目的に、SDGs関連イベントや朝市等の食に関するイベント、フォトコンテストを開催するとともに、エリア内の人流調査を実施し、プロモーション戦略を構築する。 ①SDGsイベント、HP整備(483千円)、 人流調査(100千円)パンフレット多言語化(1,594千円)、フォトコンテスト(1,004千円)、 食関連イベント(355千円)	3,535,564	2,818,000	大町市、白馬村、小谷村の自然・歴史景観に優れた24のスポットであるHakubaValley八景を誘客素材とするフォトコンテストを開催しました。 また、インバウンド向けにパンフレットの多言語化を行うとともに、インバウンド来訪者の人流調査を行い、地域の観光団体と共有しました。 通年型山岳リゾートの観光地域づくりとして、グリーン期の誘客基盤となることを期待します。
21	持続可能な宿泊施設づくりへの地域一体事業	白馬村宿泊イノベーションチーム	令和2～4年度支援金で白馬村が実施した「宿泊産業イノベーション研修実践事業」に参画したメンバーが中心となり、環境・経営の両面から白馬の宿泊業の持続可能性な方策を具現化する。 ①商品開発、勉強会等開催委託費(919千円)	918,405	595,000	宿泊施設での使い捨てプラスチックアメニティの提供廃止活動として、村内宿泊事業者を対象とした勉強会を開催しました。 また、農家や加工業者と連携し、廃棄農作物を原料とした白馬オリジナルアメニティの原料エキスの開発をしました。 今後も取組を継続することで、環境と経営の両面から持続可能な宿泊業のモデルづくり推進に期待します。
22	白馬ラン&サイクルスタンプラリー	白馬ラン&サイクルスタンプラリー実行委員会	サイクルツーリズムの確立に向けて、村内全域を使った自転車とランニングによる、「だれでも、いつでも、どこからでも」参加できるデジタルスタンプラリーイベントの実施。 ①イベント開催費用(1,053千円)	1,052,634	832,000	白馬村のサイクリングロード「白馬小路」を活用したランニングとサイクリングによるスタンプラリーを実施しました。 ゼロカーボン等の観点から、スタンプラリーはチェックポイントでQRコードを読み取るデジタル形式としました。 引き続き、多くの人々が地域を訪れる動機付けになる取組の実施に期待します。
23	地域と暮らしのゼロカーボン勉強会	地域と暮らしのゼロカーボン勉強会事務局	ゼロカーボン達成に向けた勉強会やワークショップを開催することにより、課題を共に考え、解決に向けた活動を後押しするとともに、シンポジウムを開催し、活動をさらに活発化させる。 ①シンポジウム開催(401千円)、 HP制作(297千円)	697,772	558,000	ゼロカーボンに関する勉強会及シンポジウムを開催し、ゼロカーボンに関する関心の喚起及び理解の深化を図りました。 今後も取組を継続することで、より多くの地域住民等がゼロカーボンに関心を持ち、その実現に向けて取り組むことにつながることを期待します。
24	白馬の生業「継続・継承」プロジェクト 第2弾「山城の村 白馬」を里山観光の目玉に!	白馬お宿倶楽部	白馬村神城地区にかつて多くあった山城に着目し、講座やツアーの開催、また、MAPやイラストを制作するなど山城をグリーンシーズンの新たな観光コンテンツとなることを目指す。 ①講座、動画作成(190千円)、 MAP、イラスト制作(276千円)	465,110	353,000	村内の山城をグリーン期の里山観光の目玉とし、地元の住民や海外からの観光客からも興味を持ってもらうため、山城マップを作成しました。 山城の存在認知が地元の内外に広がり、新たな観光コンテンツとなることに期待します。
25	地産地消、地元の野菜・さつまいもで白馬の特産物開発と普及で循環型観光地づくり	捨てないで資源活かして村づくり	白馬村内の若手農家と協力し、サツマイモの作付けを行い、収穫は食育の観点から地元の子供たちを交えて行う。さらに、収穫したサツマイモを活用し、スムージー等の新たな特産品開発に取り組む。 ①特産品開発(167千円)、 コンポスト講習会(167千円) ②スムージーブレンダー等購入費(600千円)	933,379	710,000	白馬村の特産品を作り出すため、作付けから収穫までの作業負担が少ないさつまいもを栽培し、特産品の開発を行いました。 また、家庭から出る生ごみを堆肥に変えるLFCコンポスト講座を開催しました。 LFCコンポストで作成した堆肥で育てたさつまいもが特産品として認知されることで、循環型社会への関心が広がりを期待します。
26	大糸線利用促進事業	小谷村大糸線振興会議	大糸線の利用を促進するため、駅構内へのガチャガチャ設置や大糸線の魅力アップのための景観確保(支障木伐採)を行うなど、大糸線を移動の手段だけではなく、乗車する動機付けを行う。 ①車窓からの景観確保(支障木伐採)(4,574千円)、 ガチャガチャ設置(1,748千円)	6,321,320	4,750,000	大糸線乗車時の楽しみを創出するため、糸魚川駅から南小谷駅までの9駅をテーマにしたアクリルスタンドを景品とするガチャガチャを設置し、新たな魅力発信ツールとして大糸線の魅力を再発見する契機となった。 また、車窓からの農山村の風景を楽しむため、視界を遮る雑木を伐採したことにより、大糸線乗車の魅力向上が図られた。 大糸線魅力向上への地域全体の取組が広く展開され、利用促進に繋がることを期待します。
27	ソフト面での白馬バレー観光回遊創出事業	THE DAY.HAKUBA VALLEY	白馬村内に地域住民の情報が記載されたカードや特典チケットの入ったガチャガチャの設置、オープンチャットを展開することにより、利用者と地域住民の交流を創出し、関係人口の増加を図る。 ①村ガチャ(1,726千円)、オープンチャット(38千円)	1,763,251	616,000	村民に会いに行くことで特典が得られる村がちゃを設置しました。 また、オープンチャットにて急遽宿泊キャンセルが出た宿情報をアナウンスしました。 地域を訪れる方と地域住民の交流が創出し、関係人口の増加が図られることを期待します。

No	事業名	団体名	事業内容	事業費 (円)	うち 支援金 (円)	講評
28	小谷村伊折地区の 地域特産物のブランド 化推進事業	伊折農業生産組 合	高齢化する農山村の維持と魅力づくりのため、地 域住民が協働し、収益性の高いハーブの栽培を中 心に行う。また、ワークショップを開催することによ り、地域の取組を発信し新たな小谷村での農業モ デルを確立する。  ①加工品試作(397千円)、ワークショップ(232千円) 無煙炭化器(78千円)、苗等の栽培資材(198千 円)	904,830	722,000	令和4年度に実施した栽培環境の検証を踏まえ、栽培し たハーブ等の加工品試作やエディブルフラワー(食用花)を 使ったレシピ開発を行ったほか、ハーブ等を活用したワー クショップを開催しました。 引き続き作業の効率化・省力化や顧客の確保に取り組 み、高齢化や短時間労働にも対応した持続可能な農業モ デルが構築されることを期待します。
29	野草・ハーブを活用した 雇用の創出と2拠点居 住のモデルケース創出 事業	uni	小谷村の野草や薬草を活用し、新たな商品開発 及び販路拡大することにより、地域女性の雇用の 場創出や移住者の増加を図る。  ①商品開発、販促資材等(499千円)	498,452	398,000	地域の自然資源と人的資源を活かし、収益が安定した女 性の雇用の場を創出するため、小谷村の自然資源を活用 した商品開発とオンライン販売のためのECサイトの制作を 行いました。 また、販路拡大のため県内外のマルシェへ出店しました。 地域住民の雇用創出に繋がることを期待します。
30	北アルプス山麓育ち 観光誘客事業	「北アルプス山麓 育ちin首都圏」実 行委員会	北アルプス地域へのインバウンドを含めた観光誘 客を促進するため、台湾において体験型旅行等の プロモーション活動を実施するほか、北アルプス地 域でしか味わえない「食」を活用して観光振興を図 るため、「スイーツ」をターゲットに国内の需要喚起 を図る。  ①海外・大阪プロモーション費用、スイーツプロジェ クト活動費用(3,390千円)	3,389,005	2,661,000	昨年度に引き続き、台湾を海外プロモーションのメイン ターゲットとし、訪日教育旅行誘致、観光誘客のため、台湾 の行政機関、学校等にてプロモーション活動を行いました。 また、スイーツプロジェクトにおいて認定された北アルプス 山麓スイーツの販売会を行いました。 今後も市町村と連携し、当地域の魅力を広く発信し、誘客 及び地域活性化につながる取組となることを期待します。
31	北アルプス山麓ブラン ド活性化推進事業	北アルプス山麓 農畜産物ブランド 運営委員会	北アルプス山麓ブランド品の海外展開や認知度 の向上を図るため、台湾における物産展の開催や PR活動等を実施するとともに、米の消費拡大に向 けた取組を実施する。  ①台湾物産展開催、おむすびプロジェクト(1,353千 円)	1,352,907	1,082,000	北アルプス山麓ブランドの海外展開として、台湾の日本食 スーパー「裕毛屋」と商談会を実施するとともに、「裕毛屋」 で物産展を開催しました。 また、北アルプス山麓地域で生産される農畜産物等のブ ランディングや認知度向上のための取組を実施しました。 引き続き関係団体と連携し、当地域の農畜産物等の魅力 を広く発信することで、ブランド品としてさらに認知が広ま り、販路拡大・販売促進につながることを期待します。